

(別記様式)

平成21年度府立北桑田高等学校美山分校 学校経営計画 (スクールマネジメントプラン)

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 働きながら学ぶことを基本とし、規則正しい生活習慣と生きる力を身に付けさせる。 2 専門学科の充実と発展に努める。専門教科・普通教科の学習を通して、個に応じた指導を行い、基礎・基本の定着や学習意欲の喚起を図る。 3 特別活動等を通して、豊かな心をはぐくみ健全な心身の発達を促す。 4 地域に根付く後継者の育成と地域の文化を支える能力の育成を図る。	【成果】 ・教材・授業方法を工夫することで基礎基本を重点に置いた授業展開ができた。 ・ほぼ全員の生徒が就労できた。 ・課題研究など、理論と実践を結びつけながら、専門教育を進めることができた。 【課題】 ・基礎学力の定着を図ることでよりよい学校生活を送ることに対する指導を進めること。	1 基礎学力に重点を置いた教材の準備や指導方法の工夫。 2 地域の素材を活用した専門教育を進める。 3 生徒全員の就労を実現し、定時制教育を充実させる。 4 育友会との連携を進め、学校行事等の活性化を進める。 5 課題をかかえる生徒に対し、教育的ニーズに応じた適切な教育的支援を行い、希望進路の実現を図る

総合評価 A 十分達成できた。 B ほぼ達成できた。 C あまり達成できなかった。 D ほとんど達成できなかった。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題	
組織・運営	学校教育目標の具現化に努める。	学校経営改善のための積極的な取組を進めることにより、すべての分野で前進させる。 定期的な教育実践の点検・検証	B	B	週1回の職員会議・職員研修を通じて教職員の意志疎通を図り、共通認識のもと計画的な教育活動を進めることができた。今後は各分掌が連携しあう組織作りをめざしたい。
	組織体制を機能的にする。	各分掌・担当者・管理職等への報告、連絡、相談の徹底 教育活動全般の組織的・計画的実践 教職員協調・協力の下、教育活動を進める。	B		
教育課程	生徒及び地域の実態を踏まえ、学校の特色を生かした教育課程を編成する。	学科に応じた特色ある教育課程を編成する。 生徒の進路希望の実現に向けた教育課程を編成する。 前年度の評価・反省に基づく改善を行う。 適切な教育課程になっているか、常に点検をする。	B	B	学科に応じた特色があり、進路実現に向けた教育課程編成がほぼできた。次年度以降は新しい教育課程に即した分校独自の教育課程編成に取り組んでいく必要がある。
	各教科の目標を明確にし、計画的な指導を行う。	年間指導計画に基づき、計画的に指導を行う。 授業公開・授業研究を通して、授業改善に取り組む。 常に、生徒の興味・関心を深める指導を工夫する。	B		
教科指導	学力の充実・向上	各学期末毎に年間指導計画の点検を行い、必要に応じて随時見直す。 常に、生徒の理解度を把握して指導する。 学習習慣を確立させるための手立てを講じる。	C	B	年間指導計画に基づき計画的にほぼ指導することができた。また、6月には全教員の公開授業が授業改善の一助となった。しかし、学期ごとの年間指導計画の点検は各教科任せになり統一してはできなかった。低学力生徒の進級に向けた補習は3学期に取り組むことができた。
	計画的で充実したホームルーム活動を実施する。	4年間を見通したホームルーム活動の指導計画を作成する。 担任団でホームルーム経営の相互評価を行い改善・工夫に努める。 ガイダンスの機能の充実の取組を進める。	B		
特別活動	創意工夫した学校行事に取り組む。	文化祭を全校あげて取り組み、成功させる。 学校行事等で一人一人が主役になれる指導を進める。	B	B	行事など生徒と共に作り上げるような関係が築けた。また、以前からゴミの散らかし等で苦情のあった場所を生徒掃除したり、見回りを行った。その際には地域の方とコミュニケーションを取る事を心掛けた。その結果が、特に苦情はなかった。
	自主的な生徒会活動を目指す。	生徒会活動を通して自主的な力を付けさせる。 各局の活動の見直しと精選	B		
進路指導部	地域で働きながら学ぶ中で、自らの適性に合った希望進路を実現する意欲・能力を育てる。	就労の実態を把握し、不就労生徒への援助・指導を強化する。 希望進路の把握と指導を強化し、全体のガイダンス・個々の指導を充実する。 口丹及び周辺地域の求人の開拓・確保に努める。	B	B	・早くから進路ガイダンスを実施し、希望の進路を決定することが出来た。求人開拓に関しては希望が出そうな事業所は確保できたがさらなる開拓が必要である。1年生の就労指導にまで手が回らず、早期解雇がでた。丁寧な就労ガイダンスが必要である。ハローワークでの紹介が可能にはなったが学校として美山地域以外の就労先を確保する必要がある。
			B		

(別記様式)

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
生徒指導	問題事象の未然防止、早期発見ができる体制作りを進める。	各分掌との連携を深め、問題行動の予防や、早期発見に努める。	B	B	生徒指導担当者の会議や研修で得た情報を生徒の実態に合わせて始業式や終業式で話をした。また、見回りなどを充実させて問題事象を未然に防ぐように努めた。また、1度指導を受けた者は時間をおいてから、面談するなど事後指導も大切にした。
		地域や関係各機関との連携を密に問題行動に対し素早く対処できるようにする。	B		
		社会的常識が理解でき、実践できるよう言葉使いなどを指導する。	B		
	深い信頼関係に基づく人間関係の育成に努める。	相手を思いやる心を育て、いじめを許さない態度を身に付けさせる。	B		
		問題事象の具体的指導を通じて生徒自身の内面に迫り、よりよい人格の形成を目指す。	B		
		健全な文化に触れさせ豊かな人間性を育成する。	B		
人権教育	互いの個性や価値観の違いを認め、自己を尊重し、他者を尊重する感性と主体的に考え、解決しようとする態度・能力を育成する。	身近にある差別問題や自分を取り巻く社会の矛盾と人権問題について学習する。	C	C	人権学習は各学年の担任を中心に、学年に応じた内容で実施できた。また、その学習を公開し教員の研修にも役立てた。教員研修は外部講師を招き「同問題と人権学習」の演題で講演を聴いた。日常的な生徒に対する人権教育は課題が残る。
		自分たちの進路と人権問題の関わりを明確にし、差別のない明るい社会を切り開く能力を身に付けるための学習を行う。	B		
		人権教育の科学的認識を系統的に育てるため教科学習の指導を充実する。	C		
		教職員が基本的人権や人権問題について継続した学習を進めるために校内研修を実施する。	C		
図書視聴覚	図書の充実を図り、読書環境を整え、教育活動に寄与するよう努める。	「読書ニュース」や「おすすめ図書冊子」等を発行し、読書への興味を持たせる。	B	C	教職員にアンケートを取り、それを冊子にしておすめ本として生徒に配布した。また、その冊子に載せた図書を購入したが、生徒の読書意欲を高めるところまではいっていない。
		図書及び図書室の整備を行い本を読みやすくする。	C		
		幅広い分野の図書・視聴覚教材を購入する。	B		
情報教育	円滑な情報教育ができる環境を整備する。	セキュリティ対策に努める。	B	B	ワープロ検定を継続して実施。育友会お知らせメールを開始した。ホームページ更新が滞ってしまった。
		パソコン及び周辺機器の環境を整え、情報科目を充実させる。	B		
		分校ホームページの更新を積極的に行う。	C		
研究・研修	授業研究等を推進し、教科指導力の向上、生徒の学習意欲を高める研修を行う。	学校の課題にあわせた校内研修を行い、指導力の向上を図る。	B	B	今年度の課題に合わせた校内研修を5回持つことができた。うち1回は外部講師による研修会も実施できた。公開授業も6月に全教員が取り組み実施したが空き時間の関係で多くの先生に見て頂くことができなかった。
		公開授業や定通研を通して、指導の充実を図る。	B		
		外部講師などにより、研修の充実と工夫を図る。	B		
健康・安全教育	自らの健康管理能力を高めるために体の健康と心の健康に関する指導をする。	健康・安全に関する教育を計画的に進める。	B	B	学校3師、SGとも連携を密に取り合い、生徒に状況に合った健康診断や健康相談、環境点検、防煙教育等を実施することができた。自分の体を意識させる保健指導を重視する中で、健康教育に取り組み、実践できる生徒を作ってきた。今後とも精神面での支援強化が課題である。
		生涯の健康保持増進につなげる実践的な健康指導の充実	B		
		スクールカウンセラーを活用し、充実した教育相談体制を確立する。	B		
施設・設備管理	施設・設備の点検を行い、安全管理を徹底する。	一般施設・設備及び防災施設・設備の日常点検・定期点検を実施する。	B	B	施設設備の日常点検により改善を図ることができた。防災教育については生徒への徹底ができなかった。
		地域や関係機関との連携を密にする。	B		
		防災教育等防災教育を計画的に進める。	C		
農場部	農業に関する専門知識や技術を身に付ける。	実習を中心とした体験的、実践的な授業を展開する。	B	B	給食センターへの大内プラの出荷を通じて地元小学校と「食育」としての交流できた。課題研究については継続して粘り強く調査データをとることができない生徒がいた。農業クラブ活動では、府大会の意見発表で入賞したり、ニュースを出すなど前進した。地域へ優良な野菜・苗が供給でき地域から評価を得た。
		4年間の集大成として課題研究を充実させる。	C		
	地域の発展を考え、実行できる意欲と能力を育てる。	農業クラブ活動を活発なものにする。	B		
家政科	家庭生活に関連する知識・技術の習得と主体的・実践的な態度を養う。	学習効果をあげる適切な教材を工夫する。	B	B	分校家政科の学習として適切な教材を工夫し、学んだ生徒の力についてはついてきているが、毎年、教師に指導上の工夫が要求される。課題を持つ入学生が広範囲の中学から入ってくることで生徒の実態がつかめにくく学習指導が難しくなっている。地域との関係は本年も充実した取組ができたが、今後地域との関係を開拓、拡大する必要性ができた。今後の課題である。地域への貢献度が高い家庭クラブの取組を、次年度の評価対象に取り入れる。
		体験的な学習の機会を設定する。	B		
	学習内容を深め、地域の暮らしを見つめ、考え、向上させる意欲を育てる。	学習の遅れがでないよう適切に補習を実施する。	B		
		福祉施設等の協力を得て地域での実習を実践する。	B		
		4年間の集大成として課題研究に取り組む。	B		

(別記様式)

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
第1学年部	基本的な学力や生活習慣を身に付け、学習及び就労に積極的に取り組む。	生活習慣を確立させる。	C	B	中学では、個別授業を受けてきた生徒が多い。1年間の成長として集団授業が受けられるようになり、行事にも積極的に参加ができるようになった。
		基礎学力を身に付けさせる。	B		
		就労や学校行事等を通して、美山分校の生徒としての自覚をもたせる。	C		
		家庭との連携を深める。	B		
第2学年部	生徒会活動や学校行事を通して自主性を育てる。	命・人権を大切にし、他人を思いやる心を育てる。	C	B	生徒会活動等には積極的に取り組む姿勢が見られた。生活面では欠席の多い生徒があり、家庭と連絡を取りその対応にあたった。
		安全にバイク通学できるよう、交通規則の遵守を指導する。	B		
		生徒会活動や学校行事に積極的に取り組む姿勢を育てる。	B		
第3学年部	他人を思いやり、責任ある行動をとれるよう上級生としての自覚を育てる。	学校の中核となる自覚を持ち、責任ある行動をとる。	C	B	進路部と連携を図り、自らの進路希望を具体化させることができた。個人の課題として、責任ある行動をとれない生徒への指導強化が必要である。
		他人を思いやり、人権を大切にする意識を持たせる。	B		
		自らの進路希望を具体化させる。	B		
第4学年部	進路目標実現に向け、あらゆる活動を通じてよりよい人格の形成を促すことを目指す。	授業を大切にし、日常生活においても自覚ある行動をとる。	C	B	授業に対して意欲に欠ける生徒がいたり、生徒指導を受ける生徒もいたが、生徒会活動等においては最上級生としての自覚を持ち行動することができ、また、進路実現に向けてもほぼ全員が進路決定に至ることができた。
		他人を思いやり、人権を大切にする意識を持たせる。	B		
		最上級生として、リ・ダ・シップを発揮し、下級生の手本となる行動をとる。	B		
		家庭との連携を強める。	B		
国語科	生徒の実態に応じた指導によって、基礎学力の向上を図る。	個々の生徒の実態に応じたプリントや副教材の準備等の工夫をする。	B	B	各学年に応じた内容で授業を展開することができた。授業に対する意欲は高められたと思うが、結果的に恒常的な学力の定着までは至っていない。課題である。
		話す・聞く・書く・読む学習をバランスよく行い、随時国語常識学習も行う。	B		
		学習に遅れが生じる生徒には、年間を通して補充指導を行う。	B		
数学科	生徒一人一人の学びや考え方を尊重しながら、基礎学力の向上を目指す。	1年次は、高校数学で必要とされる計算を徹底して練習する。	B	B	数学に対して苦手意識を持つ生徒が多い中、出来る限り容易に思えるよう、カードを使う等工夫した。その結果考え方を理解できた生徒は多かったと思う。しかしながら、基本的な計算力が弱い生徒が多く、どのように向上させるかが課題である。
		1年次は中学との接続に配慮した授業を行う。	B		
		演習の時間を多く取り、受け身にならぬよう配慮する。	B		
		学習に遅れを生じる生徒には、補充指導を行う。	B		
保健体育科	生涯を通じて継続的に運動できる能力と態度を育てると共に、運動技能を高め強健な心身の発達を目指す。	学期に1回レポート作成を課題として与える。	B	B	各種スポーツを通じてチームワークの大切さやルールを守り相手を尊重する態度を養うことができた。また、毎学期レポート課題に取り組むことで体育に関する興味関心を高めることができた。保健では身近なテーマで健康問題や環境問題について学ぶことができた。
		2学期は耐久走に向けて持久走の授業に取り組む。	B		
		運動を通じて公正、協力、責任などの態度を育てる。	B		
		教科保健を通じ健康で安全な生活を送るための基盤を培う。	B		
英語科	中学校の学習を踏まえながら、四つの領域の言語活動の有機的な関連を図った指導を展開し、実践的コミュニケーション能力を育成する。	4技能(聴く、話す、読む、書く)をバランスよく学習させる。	B	B	1年生は1学期では中学の復習に重点を置き、また週1単位をAETとの授業を通して様々なコミュニケーションの機会を持つことができた。教科書内容から背景を学習できる補足プリントを用いて、英語を身近に捉えることができた。補習に関しては、3学期を中心に行うことができたが、今後は年間を通じて行う必要がある。
		生活に根ざした自己表現活動を積極的に取り入れる。	B		
		学習遅滞生徒に対して、年間を通じた補充指導を行う。	C		
		1年次は中学校の復習に力点を置き、基礎学力の向上を目指す。	B		
		オーラルコミュニケーションは音声言語に特に力を入れる。	C		
文書・情報管理	文書・情報を適切に管理する。	個人情報等を適切に保管・管理する体制を整える。	B	B	情報管理は適切に実施できた。文書作成・起案・回議は適切に行われた。今後成績処理等への活用を図りたい。
		文書は適切に作成、起案、及び回議する。	B		
		成績処理のネットワーク化を進める。	C		
家庭・地域社会との連携	教育目標の達成を目指して、育友会・各種関係機関との連携、協力を進める。	家庭訪問等により、家庭と積極的に連携する。	B	B	育友会活動は会員・教職員一致して活発な活動ができた。農林業体験、学科発表会では地域・関係機関の協力を得て実施することができた。
		地域社会・関係諸機関等の行事に参加するなど積極的に連携する。	B		
		育友会事業及び体育施設開放をはじめ、社会教育を支援する。	B		
次年度に向けた改善の方向性	生徒指導・学習指導・進路指導等教育活動全般について、個に応じたきめ細かな指導が必要である。多様な生徒に対処するため、関係機関との連携を深め、校内外の研修を充実させ教職員の意識改革を図り教育活動に取り組む必要がある。前例踏襲にとらわれることなく学校行事等の見直し・精選をすすめ、現状に見合う学校作りを進めていく必要がある。生涯教育を見通した学校教育の実践を図る。				